

SACO合意から18年・・・

進めぬ普天間飛行場返還問題

SACO合意から18年経過した現在においても、周辺住民は基地負担を強いられています。**基地の固定化は絶対にあってはならず**早期の返還が強く求められています。

◆普天間飛行場をめぐる歴史的背景

- 1945年 米軍に強制的に土地を接収され建設される。
(当時は、補助飛行場として主にパラシュート降下訓練が行われる施設であった。)
- 1962年 市制施行の年。米軍が基地のフェンス設置開始
- 1975年 市の人口が5万人を超える。
- 1978年 ハンビー飛行場の返還に伴い、その基地機能が普天間飛行場へ移され、現在のような運用形態へ
- 1996年 **SACO合意**
- 2004年 **沖縄国際大学ヘリ墜落事故**
- 2006年 在日米軍再編協議最終報告(日米ロードマップで、2014年までに普天間飛行場代替施設を建設することが示される。)
- 2011年 日米安全保障協議委員会の中で、ロードマップで示された2014年までの普天間飛行場代替施設建設が達成できないことが確認される。
- 2013年 日米両政府により統合計画が発表され、普天間飛行場の「**2022年またはその後**」の返還が確認される。

◆普天間飛行場の概要

- 施設面積：4,806km² (480.6ha：東京ドーム約100個分)
 - ・宜野湾市(約19.7km²)の中心部約**24.4%**を占める。
(キャンプ瑞慶覧(約1,569km²)を合わせると市面積の**32%以上**が米軍施設によって占められている。)
 - ・基地を除いた宜野湾市の人口密度は約**7,197人/km²**で東京都(6,017人/km²)や大阪府(4,670人/km²)を上回る人口密度になっている。
(宜野湾市の人口：平成25年12月末で95,913人。東京、大阪の人口密度はH22国勢調査より)
- 基地内軍人・軍属数：約3,200名
- 日本人基地従業員：195人
- 普天間飛行場の常駐機：**63機**(H25.12月末現在)

MV-22Bオスプレイ：24機

CH-53Eスーパースタリオン：8機

UH-1Yヴェノム：3機

AH-1Wスーパーコブラ：9機



KC-130Jハーキュリーズ：15機

UC-12W：1機

UC-35D：3機

